

磐城時報

廿六日刊
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社
一部金貳圓一月金拾圓
廣告料一行十四字（日）休刊

鹿島村の大火

三十八戸全焼 走熊から山傳ひに 倉持畑中に延焼

二十五日石城地方を襲った風速三十メートルの烈風中午前十一時頃鹿島村大字走熊字宮崎源吉方の隣の箱崎屋敷の助が居宅を新築するたため大工職大平榮太郎外数名が作業中焚火をしたためその火の粉が烈風に煽られて隣家なる箱崎源吉方薬屋根に延焼し忽ち附近に燃え擴がり急報に接して小名濱、玉川、泉、平、飯野の各村消防組千余名が出動消火に努めたが、烈風の事とて手の施しやうがなく、火は山に燃え移り山傳へに大字走熊部落の各所に散在してゐる人家箱崎駒吉、箱崎利介、箱崎仙之助、箱崎山次郎、箱崎猪之吉、箱崎市郎右衛門、白土菊で目下取調中である。

火の手は江名を襲ひ 回春園を脅かす

鹿島村大字走熊から大字上倉持に運ぶ等大騒ぎを演じたが、幸を焼いた火は山傳ひに江名町山江名町を距る西方二三町の處林に移り江名町を脅かしたのでで鎮火した。江名町は煙に包まれた上火の一方火は江名町から豊間村に燃粉屋上に飛び危険に瀕したのでえ移り縣立回春園近くまで延焼豊間、江名の消防手数百名は江したので回春園では海岸に毛布名町に出動し町民を避難せしめを布き患者を避難せしめたが、家財道具を海上に碇泊中の漁船豊間消防手、青年團員等が消火

罹災民 小學校に收容

救済の村會
氣の毒な
鹿島村大字走熊部落大火に於て焼失した家屋中重なる建築物は正福院、西光寺の二寺院である

鹿島村罹災民に 日用品を寄贈

平消防組で募集

平消防組では井上組頭、柏原小金第一回拂込みその他一切を了頭等が發起となり鹿島村大火罹災民に日用品を寄贈する事になった

平町豫算町會

昭和四年年度豫算並に昭和二年年度決算の委員會は二十六日、二十七日の兩日開き二十八日日本會議を開く筈である。

平電と合併

小玉川水電
平町活動會館中館内平電前日進堂支店賣店で店頭に置いた上金五十余圓を二十四日午後四時頃何者にか窃取されたので平資本金五十萬圓を以て創立し株券で犯人捜索中である。

鹿島の二寺院 大火で焼失

鹿島村大字走熊部落大火に於て焼失した家屋中重なる建築物は正福院、西光寺の二寺院である

竹細工講習會

石城郡農會では農村副業として左記日割にて竹細工講習會を開催中である。

▲二十四日より廿八日迄磐崎村西郷能満寺▲三月一日より七日迄錦村小學校▲三月八日より十四日迄入遠野村小學校

磐城の無産黨 遂に分裂す

社民黨系と大衆黨系に

常磐地方無産黨として采配を振る各氏を除名する旨を議し聲明つてゐた日本坑夫組合常磐地方支部、決議を發表したので茲に磐聯合會は最近に至り黨内の結束城地方無産黨は遂に分裂して對亂れ統一を欠くに至り遂に分裂立する事になった。

老父投身自殺

悴の家出を吾にして
植田町植田字臺町楠山捨藏（六

石城藝妓演藝大會

本社主催で四月上旬平町に石城郡内藝妓の演藝大會を開催致します、出演藝妓は

平、湯本、小名濱、植田、四倉
各町粒りの名妓です。演藝番組は
長唄、清元、義太夫、端唄、小唄、踊
その他余興數番を加へる豫定です。
詳細は追て發表いたします

主催 磐城時報社
後援 磐城新聞社
常磐毎日新聞社

榮ある萬勢丸

縣一漁獲で表彰
伊藤知事の告辭
廣瀬貞、綿引司馬之助、中野本縣水産會が昨年中の鯉漁最高清一、黒澤市之助、蒲生照網漁獲船である江名町萬勢丸船主

加澤一造氏及船長坂本藤造氏に對する優勝旗授與式は知事代理として酒井商工課長臨席の下に二十四日舉行されたが當日水産會長である知事の告示は次ぎの如くである。

告辭

本日茲に昭和三年における鯉漁業成績優良者表彰の式を舉ぐ、惟ふに最近における沖合漁業はその經營方法において相當改善進歩の跡を認め得るは斯業のため實に喜ぶべき現象なりと雖も然も尚各漁船の漁業成績について考察すれば漁業經營膨脹して漁利を收むるに難くや、もすれば斯業の經營難を訴ふるものなしとせず故に設備の改善に伴ひ經營の節減に努め漁獲能率の向上を圖るは緊要の事に屬す、然るに當江名濱は漁業成績年々共に舉がり益々發展の機運に向ひつゝあるは獨り本町のためのみならず本縣漁業界のため誠に慶賀の至りに堪へざるなり、而して今日の盛況を見る所以のもの固より船主船員の奮勵努力によつて多しと雖も一面亦江名濱漁業組合並に江名町信用販賣購買利用組合の活動援助に負ふ所大なるものあるを信ず本は茲に優勝旗を授與したる萬勢丸の如きは昭和元年において優勝の故を以て表彰せられ本年亦これが榮冠を獲得するに至れるものにしてこれ獨り船元及地方各施設機關の援助に依るのみならず般長船員協力一致業務に精勵したる結果にして誠に他の模範となすに足る希はくば今後一層奮勵努力を以て本日の榮譽を保持せられんことを一言以て告辭とす
昭和四年二月廿四日
福島縣水産會會長 伊藤 昌庸

警官と漁夫

田の中で喧嘩

小名濱町漁夫某外二名が二十四日午後三時頃豊岡村大字沼の内、辨天の例祭に赴き歸り途自動車に乗つて回春園附近に差しかけた際私服の平警部補某並に豊岡村駐在巡査とが乗り込み、漁夫が詰りして騒いでゐたため警部補某は「この文なし野郎共」と輕蔑的の言葉を發したので口論となり漁夫三名と私服の警部補は自動車外に出てつかみ合ひの喧嘩を始めたが、漁夫は何れも酔つてゐたので警部補は力量優れてゐた人であつたため三名は蹴られるやら叩かれるやら散々な目に合つたので目撃者は三名に同情し警官の行爲に非難の聲を放つ者が多かつた。

湯本の山火事

幸ひに鎮火

一時は大騒ぎ
一昨日二十五日午前十一時頃湯本町西方山林から發火した山火事は午後二時頃になつて権現山に移つたが、同所は湯本町を距る僅か二町余の處なので火の粉は湯本町全町に降り落ちるので町民は家財を取り纏め避難したが午後三時半頃平消防組の應援により幸ひ人家に移らずして鎮火したが一事は大騒ぎであつた。

ハガキ集

△驛前通のハ○子とか云ふめ
即此頃少しおとなしくなつたと
思つたら盛んに闇夜でソウ

<p>胃腸 内科 専門 十二指腸 胃病 腸胃病 腸胃病</p>	<p>梅毒 皮膚病 専門 淋病 婦人病</p>
<p>村松 腸胃病科 電話(七〇一話電町南平)</p>	

柏木氏送別會

◎日時 三月二日午後五時
(出發は二日午前九時一分)
◎場所 平町谷口樓
◎會費 貳圓(當日御持參の事)
◎申込場所 磐城新聞社
(電話五四六番)
奮つて御出席下さい

主 催 在平日刊記者有志
茨城縣人會有志
平町有志一同

◎躍進!!!
新發賣の品質優秀なる
イワキ石鹼
半打入五十錢
聯合賣出し中は二箱に對し福引券を差上りませう
平町 電話四十
ニツルヤ商店

耳鼻咽喉科 専門
平町仲田町七一
移新築場所 **合津醫院**
電話五九五番

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒 **栗守酒**
朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は睡眠の助力
栗守酒特約店 **大平屋藥店**
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話六四二)

最新滋強 **ビータス** 定價(三圓五圓拾圓廿圓)
回春劑
◎適應症(腦神經衰弱、ヒステリイ、生殖不能、陰萎遺精、體力増進、新陳代謝等)
平町專賣所 五丁目角 **山野邊藥局**

磐城病院改稱
市原病院
平町田町(電話二四四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
花柳病科 市原三三男

味噌と油
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部専用)一〇番
電話(一般用)二七番
振替東京一九七五五番
上野車坂四三
東京支店
電話下谷五七二番
振替東京六八三二番

外科 専門
花柳病科 専門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

外科 専門
花柳病科 一般
柳病科 一般
診療時間(午前八時より午後九時まで)
但し急患は此の限にあらす
平町田町大通り(電話四三六番)
安齋外科醫院
入院隨意

外科 専門
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番

父政久儀病氣之處藥石無効本月十二日午後十一時五十分八十三歳の老齡を以て永眠仕候間此段謹告仕候
追而二月廿七日午後一時自宅出棺平町松堂院に於て佛式を以て埋葬仕り候
昭和四年二月廿六日
嗣子
加藤藤正丈 加藤藤正丈
加藤井盛正 加藤井盛正
加藤森澤 加藤森澤
加藤興一 加藤興一